

今回のまちづくり瓦版は、「都市機能立地支援事業」、「まちづくり支援事業」などについてご紹介します。

まちづくり
トップニュース

都市機能立地支援事業を活用した 大原総合病院移転新築工事が着工しました！

福島市大町にある一般財団法人大原総合病院が、福島市上町の旧福島市水道局跡地に移転します。

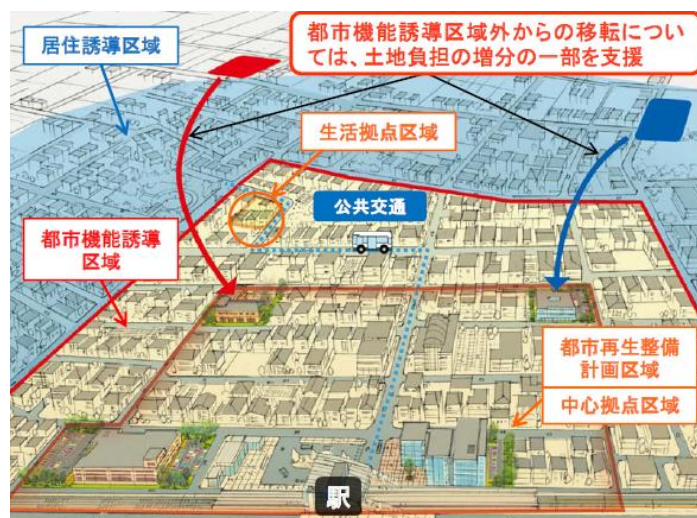
大原総合病院の病院棟には、国土交通省の【都市機能立地支援事業】を東北では初めて活用しており、9月29日（火）に現地で地鎮祭が行われ、10月1日に着工しました。平成30年1月の開院を目指します。



○都市機能立地支援事業とは

まちの拠点エリアにおいて、生活に必要な都市機能（医療・福祉・子育て支援・教育文化・商業）を都市機能誘導区域に誘導するため、都市機能を整備する民間事業者に対して、市町村が学校跡地等の公的不動産を安価で貸借させる場合等には、国からも民間事業者に対して直接補助して支援する新たな制度です。

制度活用には、立地適正化計画を策定し、都市機能誘導区域の「誘導施設」として位置づけられていること、事業が都市再生整備計画の関連事業に位置付けられていること、などの要件を満たす必要があります。



都市機能立地支援事業の詳細は、国土交通省のホームページをご覧ください。

http://www.mlit.go.jp/toshi/city/sigaiti/toshi_urbanmainte_tk_000028.html

「まちづくり支援事業」について（要綱等を改正しました。）

まちづくり支援事業とは

地域の特色を生かした個性と魅力ある美しい地域づくり・まちづくりを支援するため、市町村や地域づくりを行う町内会等に対し、計画策定や施設等整備に要する費用の一部を補助します。

補助対象事業

1 計画策定：市町村が行う以下の計画策定に要する費用に対し補助します。

- ①歴史的風致維持向上計画（市町村） ②景観計画（市町村）

2 施設等整備：市町村又は町内会等が行う以下の施設等整備に要する費用に対し補助します。

- ①休憩施設(ポケットパーク、ベンチ等)（市町村）
②裏道(路地)整備(補修含む)（市町村）
③修景整備（市町村、町内会、NPO、商工会等）

③修景整備については町内会、NPO、商工会等の方々にもご活用頂けます！

- ・やすらぎや賑わい創出のための空間づくりや面的な景観向上を図ることを目的とした公共のための取組であり、花や緑(花壇、森林内の散策路等を含む)、電飾による整備の資材購入費等を対象とします。

対象資材：プランター・腐葉土・肥料・防草シート・花苗・種・球根・樹木・木材・石材・看板・ロープ・ベンチ・電飾等

番号	補助対象事業	補助対象者	補助率	補助限度額	補助対象経費
③	修景整備(プランター、電飾等の資材購入費用)	市町村、町内会、NPO、商工会等	8/10以内	上記、施設等整備①、②、③の合計が、1市町村3,000万円以内を原則とする	資材購入費、保険料、廃棄物の処理費

修景整備の活用事例



路肩の花植



休憩施設の花壇整備



商店街のプランター等

応募方法については、まちづくり推進課のホームページ掲載の交付要綱、運用等をご覧ください。

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/41055b/matidukurisien.html>

実施したい内容がありましたら、まずは、まちづくり推進課までご相談ください。

Tel : 024-521-7511 E-mail : machizukuri@pref.fukushima.lg.jp

第1回「ハイスクール世界サミット」が開催されました！

10ヶ国の海外と18都道府県から高校生約80名が本県に集う第1回「ハイスクール世界サミット in 福島」が平成27年8月6日(木)～8日(日)までいわき市で開催されました。

初日の6日は被災地区の見学と課題発見活動が行われ、7日には東日本国際大学において【未来におけるエネルギーのあり方】【福島の再生(まちづくり)を考える】の2つのテーマについてワークショップが行われました。

最終日となる8日は同大学を会場としてフォーラム「福島から世界へ発信する私たちの夢」が開催され、高校生によるワークショップ報告が行われました。フォーラムには、安倍昭恵内閣総理大臣夫人、森まさこ参議院議員、森昌文国土交通省道路局長、清水敏男いわき市長、畠利行福島県副知事らが参加されました。

開催に先立ち、安倍晋三内閣総理大臣からのビデオレターが上映されました。ハイスクールサミットの卒業生を中心に結成する「道の駅プロジェクトチーム」による活動報告も行われ、休憩機能・情報発信機能・地域連携機能・防災機能・地域コミュニティ機能の5つの機能を備え、広野町の復興のシンボルとして整備する「道の駅ひろの」の基本構想について説明しました。

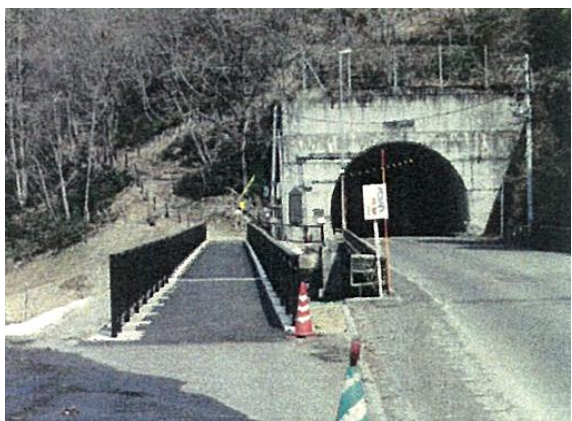
サミットの最後に行われたフロアディスカッションでは、ファシリテーターで東日本国際大学経済情報学部長の福追昌之教授及びアドバイザーと高校生による白熱した議論が展開され、高校生達の福島の今と今後のあり方に対する関心の高さを感じました。



元気ふくしま、地域づくり・交流促進事業 会津西部（只見川流域）地区



<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/16005d/tadami-ouenndouga.html>



JR 只見線は、会津若松駅から小出駅を結ぶ約 135 kmの路線です。沿線には只見川沿いに風光明媚な多くの撮影スポットを有し、平成 20 年日経プラスワン「紅葉が美しい鉄道路線ベストテン」第 1 位等の賞を受賞するなど、全国の鉄道ファンや写真愛好家等に愛されています。

只見線は、平成 23 年 7 月新潟・福島豪雨災害による不通箇所がまだに残っており、沿線の市町村では、只見線の全線復旧を目指して、只見線を利用するツアーや、只見線応援団の結成、只見線応援動画【だんだん早くなる】の作成など、様々な取り組みを続けています。

今回、「元気ふくしま、地域づくり・交流促進事業」において、道の駅尾瀬街道みしま宿の近くに側道橋が整備されました。第一橋梁の撮影スポットにより安全にアクセスできるようになり、JR只見線・第一只見川橋梁の絶景が楽しめます。ぜひ観光にお越しください！

第 9 回公園フォトコンテスト 作品募集中！！



- ・募集内容 あなたが公園内で見つけた、とっておきの風景や感動、驚き等の様々な様子を捉えた瞬間など、見た人が改めて公園の魅力に気付かされるような写真
- ・対象公園 あづま総合運動公園、福島市民家園、逢瀬公園・福島県総合緑化センター、福島空港公園
- ・応募資格 年齢、プロ、アマの制限なし
- ・応募締切 **平成 28 年 1 月 31 日（日）**
- ・お問い合わせ先 財団法人 福島県都市公園・緑化協会内
「公園フォトコンテスト」係 TEL 024-593-1111

土木部メールマガジン登録随時受付中!!!

土木部メールマガジンでは、土木部の取組みや情報を定期的に発信しています。最新号のメール配信を希望の方は、メルマガ登録をお願いします。

これまでに配信したメールマガジンについては、土木企画課のホームページ（<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/41025a/doboku-mm.html>）からご覧いただけます。

メールマガジン（無料）の配信をご希望される方は

【土木部メルマガ希望または、解除】

をお書きのうえ下記アドレスまで

メール送信して下さい。

doboku_mailmagazine@pref.fukushima.lg.jp

土木企画課（システム担当） 024-521-7886



【まちづくり瓦版 発行元】
福島県土木部まちづくり推進課

TEL 024-521-7511

FAX 024-521-7956

e-mail machizukuri@pref.fukushima.lg.jp